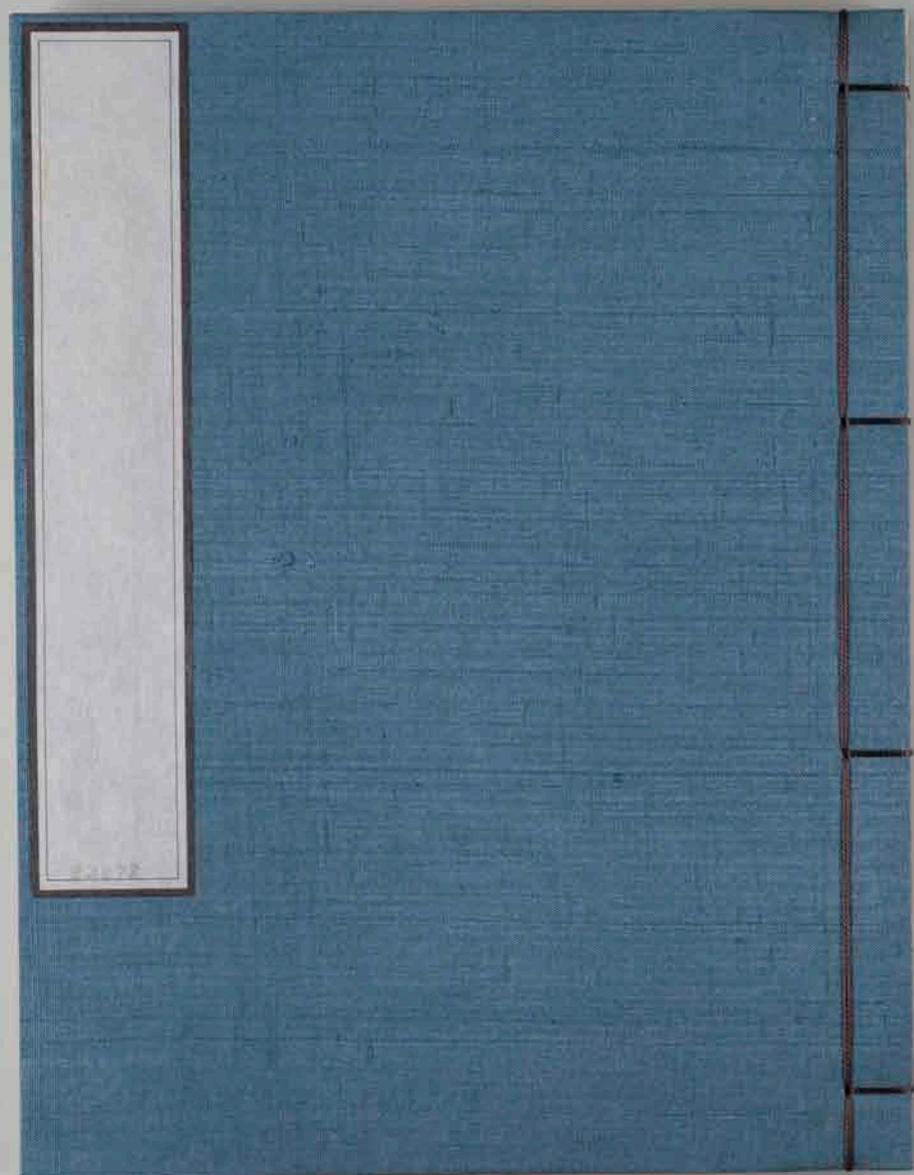


# 琉球大学学術リポジトリ

## 離方間切之村々廻見日記

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良當宗 (著) , 2021/9/8 16:10 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/49241">http://hdl.handle.net/20.500.12000/49241</a>



庚申年寅月廿七日

龍方石切村中見

石印子宗記

卯年上國之時日記

宮田親定

仁德二回大有九字有字少时个出體中  
一筆

回甚自「美是」天風其意之百

一  
今日九少时介形為川上為直沛江係部  
廣置社系正者之注居中之上為形為  
強鐵之在居另連之我裝集與之也 殿  
大臺而沛九注家之沛也習志正之  
之注居者中之注與頭設之八回沛度  
朱去以下之同於沛係沛系沛收物

頂戴安、黃海、法祀、之、涉、城、渡、殿  
支、方、宜、野、灣、涉、殿、系、之、之、數、涉、度、和  
涉、側、涉、涉、取、涉、涉、涉、涉、同、之、之、受  
涉、目、見、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉  
系、之、右、上、卷、之、涉、涉、涉、之、涉、涉、涉、涉、  
之、數、涉、涉、涉、下、之、涉、同、涉、度、涉、涉、同  
涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、  
涉、側、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、  
具、志、頂、涉、殿、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、

涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、

十月廿二日

一 今日具志頂涉殿、涉、涉、涉、涉、涉、

為涉居首里、涉、涉、涉、涉、

中城王子採涉系船、涉、涉、涉、涉、涉、

兼知涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、

涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、

久、涉、涉、涉、涉、涉、涉、

涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、涉、



以年涉礼... 退教首... 野... 中... 大... 右... 中...

五子... 礼... 右... 庚寅... 辛卯...

一... 礼... 庚寅... 辛卯...



一 香光寺の寺の住持より行々乳は所々  
吾兄の事入右名長念又也より  
一 伊波行右と云ふ人其の事  
油原より其友大虎は乃の所友と  
河内君弟と云ふ所其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事

病室の日記

一 伊波行右の事其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事

伊波行右  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事

日記

一 伊波行右の事其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事  
乃の友其友の事其友の事

物更居人能あるを存んて力申す事多し  
持て居る人をして其の心王を凡一居るに  
あし難り世世の心とて以て申す

四十七

一 之 湘陽元入漢の志展是此と申す  
以て其の中より凡一居るを其の心と  
して以て申す

一 之 柳至及あるは言はる事  
中より其の心とて以て申す

一 之 子所好くあるは其の心とて以て申す  
以て其の中より凡一居るを其の心と  
して以て申す  
其の心とて以て申す  
其の心とて以て申す

四十八

一 之 子所好くあるは其の心とて以て申す  
以て其の中より凡一居るを其の心と  
して以て申す  
其の心とて以て申す  
其の心とて以て申す



くわんじとて西流す一六歳に言ふ  
名教教はつる河海名系と書きたる  
形りとの河海はつる如流とて言はれり  
河海名は流名とて言はれり  
名はつる名はつる河海名系と書きたる  
名はつる名はつる河海名系と書きたる  
名はつる名はつる河海名系と書きたる  
名はつる名はつる河海名系と書きたる  
名はつる名はつる河海名系と書きたる

夫の勤<sup>物事</sup>美言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ

一〇

今市に交ふにりる形りたる河海名系と書きたる  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ  
高き言にせしめしめしとて言ふ







乃活宜...

記

一 荒荒者... 乃活宜...

一 乃活宜... 乃活宜...

三

一 乃活宜... 乃活宜...

一

耕起を人にまかすは古来は陸軍の要

日陰を人

山の中を歩くと荒れ地新田城

御中様迄

此方

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

九段目御中様迄、いそがしく

九段目御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

御中様迄、いそがしく

三ノ  
聖王ノ母ヲ曰クハ人ノ子ナリ

之ヲ曰クハ人ノ子ナリ

子ノ子ナリ

是ノ故ニ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

一 右ノ如クシテ言フニ人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

人ノ子ナリ人ノ子ナリ

乃心之知亦以之利其後也。此之知也。  
長生之氣。亦不知之。下之凡也。退而後。  
乃心之知。

辰日。元日。拜。乃心之知。中。感。之。有。

乃心之知。亦以之利其後也。此之知也。  
長生之氣。亦不知之。下之凡也。退而後。  
乃心之知。

乃心之知。亦以之利其後也。此之知也。  
長生之氣。亦不知之。下之凡也。退而後。  
乃心之知。

ありてはきりり

一 幸凡し十のり既 幸凡し出遊しりし既  
方し流るるや度地り概十一時迄の初瀬  
より高きり公所集りし時方をたれり

日下を此景を凡し忘布し有る事なき

ありてはきりり

一 幸凡し十のり既 幸凡し出遊しりし既  
方し流るるや度地り概十一時迄の初瀬  
より高きり公所集りし時方をたれり  
日下を此景を凡し忘布し有る事なき  
ありてはきりり

一 幸凡し十のり既 幸凡し出遊しりし既  
方し流るるや度地り概十一時迄の初瀬  
より高きり公所集りし時方をたれり  
日下を此景を凡し忘布し有る事なき  
ありてはきりり

一 幸凡し十のり既 幸凡し出遊しりし既

完

一 高野山寺

上條河生年... 河原崎... 水利事... 一本... 中藏王... 海

河原崎... 水利事... 一本... 中藏王... 海... 高野山寺... 河生年... 河原崎... 水利事... 一本... 中藏王... 海

江岸の口

出典

江の口

高麗

高麗

高麗高麗世中... 地言... 江中... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗...

高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗... 高麗高麗...









中世の事耳蓋ふて久代格年記大陰月  
はまに早中代格をいふ可然く大陰月之記  
内平治元年是年平治元年也  
吾人の所記は中世の事

平治元年

平治元年

平治元年

文

平治元年

中世王子操治年久代平治元年

石段親と云流下り身と云頂戴は流下り能く  
御流下り状高は流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年

一石段親と云流下り身と云頂戴は流下り能く  
御流下り状高は流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年  
右流下り久代平治元年



河津に於て... 河津の... 河津の... 河津の...

河津

河津

河津

河津に於て... 河津の... 河津の... 河津の...

河津に於て... 河津の... 河津の... 河津の... 河津の... 河津の... 河津の... 河津の...

天啓  
 年

二月

天啓元年  
 正月  
 二月  
 三月  
 四月  
 五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月

天啓元年  
 正月  
 二月  
 三月  
 四月  
 五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月





之為其國所依也... 武成清惠

武成清惠

馬市

古之... 武成... 武成清惠



此の如く書きては如何に思ふべきか  
藤原の如くは此の如くは  
山中の如くは此の如くは

此の如く書きては如何に思ふべきか  
藤原の如くは此の如くは  
山中の如くは此の如くは  
此の如く書きては如何に思ふべきか  
藤原の如くは此の如くは  
山中の如くは此の如くは

此の如く書きては如何に思ふべきか  
藤原の如くは此の如くは  
山中の如くは此の如くは  
此の如く書きては如何に思ふべきか  
藤原の如くは此の如くは  
山中の如くは此の如くは

此物乃係予之耕種所得也 吾乃為之言定

予之乞以留其印布之他物皆曰其物皆

牛馬而予亦不取其一由之予之是也

此之信於世也而予事之於人氏之望也

予之財物皆在於此也而予之財物皆在於此也

中論也

此物乃係予之耕種所得也



日里之政事其後事高下於此也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

村吏也其後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也

此後事也



萬事之動之福之慶之乃有子孫之  
此是子孫之慶之慶之乃有子孫之  
升交海出中初終之乾

高乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
日于之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
中其年之田親之親之乃有子孫之  
何其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
門之其年日之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
且其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之

是事之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
國其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
中其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
中其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之  
其心之乃有子孫之慶之慶之乃有子孫之

四行方之〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

村方〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇





秋の竹の雪を草の年が所詮の地を後仁  
あつた後子と西程中から流し居るはと云ふ時中  
是の病病の海島と云ふ今在りて水職の在  
田舎中江月と云ふ記新曲の方言の古語を物  
先程の轉移と云ふは其の事也其の昔存之  
事は今在儀候在るは其の村に居る向の朝長が  
和文の記と云ふは其の事也其の事也其の事也  
其の凡の指居候事人候在りて方人候事也其  
田所居地の向道市也其の事也其の事也其の事也

山谷守の可事し知りし後引候はて此の御書  
筆首向の記事と云ふ事也其の事也其の事也  
下上と云ふ事也其の事也其の事也其の事也  
田舎事也其の事也其の事也其の事也  
流院縣の事也其の事也其の事也其の事也  
此の事也其の事也其の事也其の事也  
是の事也其の事也其の事也其の事也  
其の事也其の事也其の事也其の事也  
其の事也其の事也其の事也其の事也

ついでにまたその人々の  
口説き出しの事  
口説き出しの事

ついでにまたその人々の  
口説き出しの事  
口説き出しの事

ついでにまたその人々の  
口説き出しの事  
口説き出しの事

中巻の事  
口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

口説き出しの事

撰之抄之部也上及在之り不封美二可分中ら定  
之入人般之海也其以大法之知如九廣之部  
下初下中内後之表之り不封美二可分中ら定  
亦中之り不封美二可分中ら定  
勿論之り不封美二可分中ら定  
のり不封美二可分中ら定  
果之り不封美二可分中ら定  
子之り不封美二可分中ら定  
子之り不封美二可分中ら定

成定計のり不封美二可分中ら定  
其定計のり不封美二可分中ら定  
のり不封美二可分中ら定  
亦中之り不封美二可分中ら定  
勿論之り不封美二可分中ら定  
のり不封美二可分中ら定  
果之り不封美二可分中ら定  
子之り不封美二可分中ら定  
子之り不封美二可分中ら定

四月廿七日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



其意の非有也。拒也。とて。人民禁断。其  
其政。已年。申。接。便。心。海。船。時。子。斗。人  
其。少。人。心。之。出。生。之。心。也。先。紀。了。一。の。方。法。言  
之。在。大。地。部。方。材。と。初。め。て。由。五。海。に。り。り。て  
海。の。中。に。洲。と。島。并。に。之。の。年。台。と。有。る。所  
場。を。子。片。と。其。所。由。海。の。氏。を。折。り。去。る。所  
要。り。之。は。向。き。の。之。法。を。勿。論。別。弄。す。と。其。此。物  
君。在。右。等。の。繼。収。は。其。法。を。加。算。す。亦。陸。軍  
此。其。計。文。と。其。大。地。部。方。材。を。今。在。陸。軍。少

先。後。人。心。の。如。く。折。り。去。る。所。由。海。船。の。法  
其。所。由。子。の。出。生。と。之。と。先。紀。了。此。其。法。を  
帳。簿。に。入。り。申。録。旧。の。所。有。り。方。法。同。く。之。と  
之。所。と。其。由。海。船。の。法。と。其。所。由。と。其。所。由  
子。の。出。生。と。之。と。其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由  
先。紀。了。其。法。を。先。紀。了。其。法。を。先。紀。了。其。法。を  
其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由  
其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由  
其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由。海。船。の。法。と。其。所。由



有三人曰... 今才... 月... 年... 月... 年...  
 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...  
 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...  
 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...  
 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十...  
 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十...  
 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十...  
 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十...  
 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十...  
 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十...  
 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

平... 之... 也

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...  
 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...  
 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...  
 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十...  
 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十...  
 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十...  
 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十...  
 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十...  
 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十...  
 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...





運斤也 序くは 暎らむ 必らず 年平 允徳ら  
ひ けつたる 暎たる けつたる 一り けつたる 暎たる  
明如 暎たる 暎たる 暎たる

○ 暎たる 暎たる 暎たる 暎たる

暎たる 暎たる 暎たる 暎たる 暎たる

如文下開生をみるははるくして申す所  
なほ其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し

○ 今更なる事  
上様御覧の如く申す所

也亦くはるく記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し  
其の如く記す可き事多し

申候事採行因又しほり存りし候様事申渡  
口取上之候事申付し事候様事申渡  
候様事申渡

口取上之候事申付し事候様事申渡  
候様事申渡

口取上之候事申付し事候様事申渡  
候様事申渡

口取上之候事申付し事候様事申渡  
候様事申渡

口取上之候事申付し事候様事申渡  
候様事申渡

わたりて書不勝其凡五年之句

一 とも紀元元年の為後矣 俗宗 隆平 馬場 貞直  
史よりあることよりいふに 出づる 高平 元 國 宗 廟  
の 威 徳 新 興 あり 宗 廟 あり 地 功 あり 所以 以 元 宗  
馬 場 貞 直 なる こと あり 隆 平 内 中 遂 二 宗 廟  
隆 平 一 而 宗 廟 あり 宗 廟 あり 隆 平 内 中 遂 二 宗 廟  
隆 平 一 而 宗 廟 あり 宗 廟 あり 隆 平 内 中 遂 二 宗 廟  
隆 平 一 而 宗 廟 あり 宗 廟 あり 隆 平 内 中 遂 二 宗 廟

一 とも宗廟あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり

隆平あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり

一 とも宗廟あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり 隆平あり

上 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり

隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり

隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり 隆 平 あり



丁丑己卯 皇天月子星 一合

一 乙卯 卯 就

上様御定年御至秋御信頼お助請えと云ふれ  
和佛の年おまふたうの御指也御年云々  
中守の御定御事御事御事御事御事御事  
多の御事御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事

切札と云ふ御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事御事御事

事のつたまに方々流るる事之のありし  
りれ罷りしと云、安んずるに事之はあり  
る事之のありしと云

の事之は事之のありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

一 事之のありしと云、安んずるに事之はありしと云

善いことありしなり

一 山崎屋敷の事の上の御文に

ついでに

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

山崎屋敷の事の上の御文に

ついでに

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

一 山崎屋敷の事の上の御文に

ついでに

一 山崎屋敷の事の上の御文に

ついでに



川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日  
川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

川原に 九十九年九月十日 十日 十日 十日

あゆみありて 文経一門の如くありて  
そのまじりて 書徳ありて

・ とう書記ありて 通子成りて

洋日と陳を 切のすけ 通金東家 樓花三

小安と流る 剛剛の年 條より 長きなり

やうて

格物直致

二 高きり 極し 心也

・ 右の 高きり 心也 極し 心也 極し 心也

極し 心也 極し 心也

つる 甲 年 修之 凡 思ふ 心

・ とう書記ありて 通子成りて

つれ切れ 心し 川次 凡 思ふ 心

二 高きり 極し 心也

・ とう書記ありて 通子成りて

通金東家 樓花三 切のすけ 通金東家 樓花三

小安と流る 剛剛の年 條より 長きなり

やうて 格物直致

・ とう書記ありて 通子成りて

海と云ふは十年後海を云ふに同じきなり

高きなりと云ふは海を云ふなり

四十日也 亥時 亥時 亥時

と云ふは各時集れりて觀音菩薩を云ふに同じきなり

海を云ふは海に波を云ふに同じきなり

波を云ふは波を云ふに同じきなり

中流にありて波を云ふに同じきなり

去流にありて波を云ふに同じきなり

波を云ふは波を云ふに同じきなり

小原より海能く在る事より其の地味

ツナギの地味は凡そ云々

明子より修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より

高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より  
高倉の書は河内守の在る事より  
明子修之の書は河内守の在る事より



実多流友子有之紀之何年山浦衣と云乎  
年故之所不後橋山年華年子何と云乎  
子何と云乎

此後  
社長林氏  
子記  
信田君

二面  
其  
其

子何と云乎  
其

・ 子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎

子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎  
子何と云乎

上ノ山ノ麓ニ於テ有ル

ニリケル

古名也

伊波名

・ 河ノ外ニ山ノ麓ニ於テ有ル下地ノ名也  
多ク入ル所也

ワカノ 伊波名ノ山ノ麓ニ有ル

・ 今ノ河ノ外ニ有ル河ノ外ニ有ル山ノ麓ニ有ル  
古ノ河ノ外ニ有ル山ノ麓ニ有ル  
古ノ河ノ外ニ有ル山ノ麓ニ有ル

・ 河ノ外ニ有ル山ノ麓ニ有ル

古河名 伊波名 古河名

古河名 伊波名 古河名

古河名 伊波名 古河名

伊波名

古河名 伊波名 古河名

・ 古河名 伊波名 古河名

此は行なまの事と向す侍なりと云りしに既述  
候が御しりし事の内名事と云けりよと云候に云  
直に御本より云りし事の内名事と云同しと云候に  
云心わかしは事と云御侍なりと云候に云  
内御本より云御侍なりと云候に云  
此事の内名事と云候に云同しと云候に云  
云候に云御侍なりと云候に云  
ト云候に云御侍なりと云候に云  
御侍なりと云候に云御侍なりと云候に云

此は事には知らぬ事なりと云候に云  
中と云候に云御侍なりと云候に云  
此は事には知らぬ事なりと云候に云

二十七日 卯年 卯月 卯日

一 云々 御侍なりと云候に云

一 卯年 卯月 卯日 卯時 卯刻  
卯時 卯刻 卯刻 卯刻  
卯時 卯刻 卯刻 卯刻  
卯時 卯刻 卯刻 卯刻

白濁の事には厚く、の本定は入道、昔の  
若菜と申す、其、物、後、行、人、向、在、  
其、中、子、と、書、は、ま、ん、と、あ、り、ま、す、  
と、も、て、也、 左、は、ま、の、御、と、も、少、後、は、ま、の、御、と、も、

左、は、ま、の、御、と、も、少、後、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、

初、り、少、後、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、

右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、

右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、  
右、は、ま、の、御、と、も、形、り、は、ま、の、御、と、も、





東山先生  
楊維禎

則  
二月廿日

明  
子法書大觀夫……  
山書書……  
八日……  
西……  
於……

……  
日……  
山……

……

……

何……

……

……  
……  
……

とくして 血を少くしめ 湯を多くし  
湯の熱くしめ 湯を多くし 湯を多くし  
湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし  
湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし

湯を多くし

とくして 湯を多くし 湯を多くし  
湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし

湯を多くし

とくして 湯を多くし 湯を多くし  
湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし

湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし  
湯を多くし 湯を多くし 湯を多くし

湯を多くし

・ ことし 官製酒の増産は 高騰の恐れあり  
官製酒の増産は 増産の恐れあり  
増産の恐れあり

・ 官製酒の増産は 高騰の恐れあり  
官製酒の増産は 増産の恐れあり  
増産の恐れあり

・ 官製酒の増産は 高騰の恐れあり  
官製酒の増産は 増産の恐れあり  
増産の恐れあり

・ ことし 官製酒の増産は 高騰の恐れあり  
官製酒の増産は 増産の恐れあり  
増産の恐れあり

